

データ接続料の精緻な算定に向けた要請について

令和3年2月24日

事 務 局

経緯

昨年12月21日に開催された「競争ルールの検証に関するWG」第13回会合において、MNOの「廉価プラン」について、MVNOとの競争の関係上、接続料の適正性を含め、スタックテスト等で検証すべきなどの構成員発言があった。

また、先月18日に(一社)テレコムサービス協会MVNO委員会から、イコールフットिंगの確保のための緊急措置の実施要望に関する「要望書」が提出された。

それらを踏まえ、先月19日に開催された「接続料の算定等に関する研究会」第40回会合で、「携帯電話料金と接続料等の関係について」の検討を開始するとともに、同協会MVNO委員会から上記要望書を踏まえたヒアリングを実施。

今月8日に開催された同研究会第41回会合で、MNO3社(NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク)から試算による検証及びMVNO2社(IIJ、オプテージ)から原価構造等についてヒアリングを実施。この際、座長から、データ接続料の算定を行う際には「新料金プラン」といった競争環境の変化を踏まえた更なる精緻化をMNO3社がしっかり行うよう、総務省に対して迅速な対応の求めがあった。

それを受け、今月9日に、総務省がMNO3社に対し、2021年度以降に適用されるデータ接続料の算定について、要請を実施。

MNO3社への要請内容

2021年度以降に適用されるデータ接続料の算定について(要請)

今般、貴社が発表した新たな大容量の料金プラン(以下「廉価プラン」という。)については、家計負担の軽減につながるものであり、消費者を含めモバイル市場全体の活性化につながるものである。他方で、この「廉価プラン」の利用者料金水準は、多くのMVNOが提供するサービスの料金プランと接近するものとなっていることから、MVNOを含むモバイル市場の競争環境に重大な影響を与える可能性があり、接続料の適正性を確保することが、これまで以上に重要なものとなる。

データ接続料の算定については、現在、将来の合理的な予測に基づく将来原価方式を採用しているところ、適正性を確保するに当たっては、市場環境の変化を踏まえ、将来の原価や需要等について、より精緻な予測が求められる。

例えば、需要については、「廉価プラン」の導入を契機として、低容量プランの契約者が大容量プランにシフトするなど、全体として、データ利用に係る需要が大幅に増加することも想定される。また、原価についても、既存設備の活用や新たな技術開発等、効率化に向けた取組が進展していると認識している。

貴社におかれては、今年2月末までに届出がなされる予定となっている、2021年度以降に適用される予測接続料の算定に当たり、上記に例示した状況変化も含めた市場環境の見通しを適切に反映し、より一層精緻な予測に基づく算定を改めて行っていただくよう要請する。